

新年を迎えて

しずない農業協同組合代表理事組合長 西村 和夫



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様には、ご家族ともどもご健勝で新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年の日高地方は、春の低温と雨不足、夏は高温と数十年ぶりの台風の上陸が重なり、近年にはみられなかった地球温暖化による災害があった一年でした。

しかし、北海道各地の被害状況と比較しますと、不幸中にも最小限で済んだのではないのでしょうか。

このような気象状況の中でも当JAでは、組合員皆様の努力で、農作物はほぼ平年作まで回復し、

畜産物についても軽種馬の市場取引を含めまして近年になかった伸びを示し、各作物ともに良い出来秋を迎えることができたものと考えております。

国内のJAと農業を取り巻く環境に目を向けますと更にその厳しさは増し、特に農協改革に強い意欲を示す規制改革推進会議（ワーキンググループ）は横暴とも言える改革を要求してきており、TPPについては、アメリカ大統領選挙の結果、今後の動向が不透明な状況となってきました。

今後もJAとしての組織の在り方が問われ続けていくことと思いますが、私たち自身もJAの理念を再確認し、農業者の相互扶助の組織としての在り方を組合員の皆様と考え、運営して参る所存であります。

また、3JAの合併につきましては、財務環境改善を中心に協議を進めておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

次に各作目別について申し述べ

ます。

水稲は、全道の作況指数103に対して、日高は101となりましたが、当地区では、昨年も整粒率の高い良い作柄となり、加えて、ブライベートブランドの特別栽培米「万馬券」の食味が各方面で高く評価されたことを受け、高値で取引されています。

青果では、ブランド名が定着したミニトマト「太陽の瞳」については、春先の低温と夏場の高温による花とびの影響から出荷量が前年対比で91%と伸び悩み、その影響から取扱金額は8億6600万円、青果全体でも9億8600万円という結果になりました。

しかし、本年4月には3組の新規就農者の参入により、受入戸数も10組となり、また、目名地区のハウス団地では、4組の方が就農を目指し、研修に取り組んでいきます。担い手も着実に増えており、ミニトマト部会の掲げる「売上額全道一！」という目標に向け、大きな原動力となっていくことと期待しています。

今年も新ひだか町農業担い手育成支援協議会と連携し、新規就農者及び研修生の支援を続け、地域

の経営基盤の強化に努めて参ります。

酪農については、乳価(kg単価)が前年からの据え置きであったものの、計画を上回る取り扱いで推移しております。

黒毛和牛については、これまでの研鑽による素牛づくりが市場関係者から高い評価を獲得しており、加えて、市場の素牛の不足感から平均購買価格は前年と比較して約17万円の増加となり、去勢で90万7000円、めすで76万5000円という高値となりました。

全体の取り扱いについても過去最高となる6億円を突破し、7億円も目前という結果となりました。

最後に基幹産業である軽種馬については、国内経済が少しづつではありますが、着実に回復している兆しが見え始めていることから、昨年の市場販売頭数及び販売額は、337頭、30億円と2年連続で30億円突破となりました。

平均販売価格も前年対比で64万8000円増加となる892万5000円となり、国内景気の回